令和6年度
岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ
活動報告書

岐阜市 企画部 総合政策課

目次

１ メンバー一覧 P1

2 活動概要 P2

3 各グループの活動報告 P3

4 活動を振り返って（ファシリテーター：岐阜大学　篠田朝也　教授） P7

5 アンケート調査結果 P8

Ⅰ メンバー一覧

令和6年度の“岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ”は、政策立案能力の向上と若手職員が活躍する組織風土の醸成を目指し、「岐阜市（16 人）」「十六銀行（3 人）」「岐阜大学生（5 人）」の産学官共同プロジェクトチームにより 24 人が 4 グループに分かれ、活動しました。

	氏名	所属
グループ①	野村 直利	行政部　内部統制推進課
	寺本 直道	環境部　環境保全課
	松波 奈津実	ぎふ魅力づくり推進部 ぎふ魅力づくり推進政策課
	垣内 楓香	福祉部　介護保険課
	森 貴史	十六 TT 証券株式会社
	月野 絵梨	岐阜大学
グループ②	川口 由充加	市長公室 広報広聴課
	青木 菜々穂	市民生活部 市民課
	伊藤　暢康	財政部　資産税課
	井上 友紀	まちづくり推進部 建築指導課
	永井 樺乃	カンダまちおこし株式会社
	清水 真唯	岐阜大学
グループ③	後藤 和己	子ども未来部 子ども政策課
	増田 知美	市民協働推進部 図書館
	村瀬　康城	基盤整備部 広域事業推進課
	森 菜々美	教育委員会 教育政策課
	中山 尚	株式会社十六銀行
	渡邊 恵奈	岐阜大学
グループ④	丸山 了佑	上下水道事業部 下水道事業課
	奥谷 知恵	監査委員事務局 監査課
	髙橋 歩杜	経済部　商工課
	山田 侑希	都市建設部 都市計画課
	坂下 七海	岐阜大学
	中嶋 萌	岐阜大学

ファシリテーター ： 岐阜大学 篠田朝也 教授、 出村嘉史 教授、川瀬真弓 助教

2 活動概要

活動回	活動内容
第 1 回（R6.4.24） キックオフ	・オリエンテーション ・政策形成研修：岐阜大学 篠田教授 「より良い公共経営のあり方を目指して －事業立案の基本的な考え方－」
第 2 回（R6.5.22）	・政策形成研修：岐阜大学 川瀬助教「デザイン思考」 ・グループワーク：Business Origami を活用した事業構築
第 3 回（R6.5.29）	・グループワーク：ビジネスオリガミを再活用し、課題を明確化、 協力を依頼する部局の選定
第 4 回（R6.6.5）	・グループワーク：関係課による岐阜市の現状や課題、政策の方針等の説明
第 5 回（R6.6.26）	・グループワーク：中間発表に向けた課題整理
第 6 回（R6.7.3）	・個別相談会
第 7 回（R6.7.18） 中間発表	・提案の方向性の発表 ・関係課からの質疑 ・ファシリテーターからの講評
第 8 回（R6.8.8）	・グループワーク：予算化に向けた財源、KPI、アウトカムの構築
第 9 回（R6.8.22）	・個別相談会 ・未来創造研究室相談会
第10回（R6.9.5）	・グループワーク：提案事業のブラッシュアップ、プレゼンテーションの準備
第11回（R6.9.20）	・個別相談会
第12 回（R6.9.26）	・個別相談会
第13 回（R6.10.2）	・個別相談会 ・財政課相談会
第 14 回（R6.10.23）	・個別相談会（プレゼンテーションリハーサル）
第 15 回（R6.10.25） プレゼンテーション	・グループ① ぎふ未来 biz. ・グループ② 特定健診受診率向上プロジェクト ・グループ③ ひとり親情報支援プロジェクト ・グループ④ セカンドライフ支援プロジェクト
～	・提案事業の予算化に向け、関係課とともに内容を精査 ・予算査定
第 16 回（R7.2.20） 活動報告会	・プレゼンテーション後の活動を報告

3　各グループの活動報告：グループ①【ぎふ未来biz.】

＜提案の概要＞

◆　アントレプレナーシップ教育を通じたチャレンジ精神の向上

・チャレンジ精神を持ち、**岐阜市の未来の担い手**を育てたい。
・将来を考え始める中学2年生をターゲットに、**手法としてアントレプレナーシップ教育を用いて、チャレンジ精神の向上**を図る。
・地域と関わりながら企画から販売までを経験できるプログラムを中学校の授業で展開。
・まずは藍川北学園の8年生向けに行い、**授業のプログラム化を目指す**。

私たちからのご提案

事業化に向けた活動

・藍川北学園での**「わかあゆ学」キックオフミーティングに参加**
・**新しい地方経済・生活環境創生交付金の活用**検討 ⇒ 申請中
・「岐阜市校内放課後ユースセンター事業」の提案
　⇒ R8年度以降の事業として検討
・業者選定方法の検討 ⇒ 担当課での指名競争入札の予定
・【予算要求額】1,795千円 ⇒ **【査定結果】1,700千円（95千円の減額）**

活動を通して得た学びなど

・事業を実現していくにあたっての関係各課との調整力
・合理的根拠に基づき事業目的を明確化、立案することの重要性
・理想像に近づくための課題発見力

3　各グループの活動報告：グループ②【特定健診受診率向上プロジェクト】

＜提案の概要＞

◆国民健康保険に加入している特定健診の受診対象者に対し、
受診率向上に繋がる事業を実施することで、特定健診を通じて
受診者が自身の健康状態を把握し、より健康により長く活躍できる
岐阜市を目指す。

・特定健診を実施している医療機関の検索・予約システムを構築
・自己負担金無償対象者の範囲を拡大
・特定健診の制度理解を深める啓発動画の制作

事業化に向けた活動

・検索・予約アプリ
アプリ導入における詳細な費用の設計や機能面について提示までのハードルが多く
また、岐阜市と関係機関との調整が困難であった。→令和7年度での実施は見送ることとなった。

・自己負担金無償化とプレ検診の実施
特定健診の継続性向上を目的とした、特定健診対象年齢前のプレ健診の実施を加え、提案を一部変更した。
情報収集を様々な手を使って行ったが、取組の事例が少なく、エビデンスを十分に立証するには足りなかった。
→受診対象者の意見をより詳細に聞き取り、施策立案に反映させる必要を感じた。

・集団健診でのアンケート調査実施
1月19日、2月9日に開催した集団健診の結果説明会にて、アンケート調査を実施予定（結果説明会：2月23日、3月16日）

活動を通して得た学びなど

・事業提案、予算案作成のプロセス
・事業を立案する段階の調査（アンケート、データ収集）の重要性
・見積作成、予算化するに当たっての業務に対する知識や経験の重要性
・ステークホルダーとの円滑な関係性を維持することも必要であるため、すべての事業がスムーズに進んでいくとは限らない。
・事業の目的や意図を限られた時間、機会で誰が聞いても伝わるように説明すること。

3　各グループの活動報告：グループ③ 【ひとり親情報支援プロジェクト】

＜提案の概要＞

◆ **ひとり親家庭**が時間的・空間的制約なしに、**気軽に支援等の情報を得る**ことができるよう、**専用ホームページ**を作成し、情報取得支援を行うもの。

ホームページのメインコンテンツ

・自身の情報を入力すると、自身に関係する支援が一覧化される「**アンケートシステム**」
・経済的自立を促し、今後のモチベーションにつなげられる「**自立シミュレーション**」

周知・運用

・**市民課との連携**（チラシの挟み込み）のほか、**ひとり親支援団体とも連携**して運用

事業化に向けた活動

・講評も踏まえ、子ども支援課と協議した結果、**予算化はせず、職員の努力で**提案の一部を実現することとし、当事者目線を意識して、**既存のホームページの見直し、改革等**を行うこととした。

✔「**ひとり親ガイドブック**」について内容を拡充するほか、ホームページ上でも**文字検索可能な状態**に
✔ 事業名の羅列だったトップページを、**離婚・未婚・死別等**で**場合分け**し、関係する**支援をナビゲーション**するとともに、**支援内容も一目で視認**できるように

▶ *顔の見える関係（アナログ）も引き続き大事にしつつ、デジタル面の利便性向上*

・事業化には至らなかったが、**問題提起**として、一定の役割は果たした。

活動を通して得た学びなど

・理想状態と現実のギャップが解決すべき課題となること ››› *政策立案の第一歩*

・説得力のあるプレゼンの難しさ ››› *EBPMの徹底、選択手段は目的を達成するために最適か*

・ステークホルダーとの関係構築の重要性 ››› *事業の対象も、事業を行うのも、”人”*

3　各グループの活動報告：グループ④【セカンドライフ支援プロジェクト】

＜提案の概要＞

◆　シニア向けに、既存の高齢者のイメージに捉われない多様性の時代に合った講座を開催し、退職後の生きがいづくりを図る

〇3日間連続講座を開催
- 令和7年度はeスポーツ講座
- 新たな興味関心を発見し、同じ趣味の人とつながる場の提供
- 1講座90分、午前・午後の部

事業化に向けた活動

- 事業実現に向け、複数の講座の実施から、eスポーツの講座に限定した実施に変更
- 既存の事業に合わせ、参加費を100円に変更
- 高齢福祉課からのアドバイスを受け、集客を図るため、ねんりんピックの協賛事業（予定）とすることを追加
- 関係事業者に相談し、来年度から実現可能な事業詳細の考案および仕様書等の作成

【予算要求額】530千円　⇒　【査定結果】400千円（130千円の減額）
【歳入見込額】114千円　⇒　【歳入見込額】18千円（96千円の減額）

活動を通して得た学びなど

- 第三者から見た客観的な視点と当事者から見た視点とのギャップ
- 事業の効果的な実現に向けたPR方法等の検討の必要性
- 事業関係者とのコミュニケーションの重要性

4 活動を振り返って（岐阜大学社会システム経営学環　教授　篠田朝也）

皆さん、全 16 回にもわたる「岐阜市の未来をともに考えるワーキンググループ」研修、本当にお疲れさまでした。

この研修は、若手職員の皆さんが岐阜市の政策課題に正面から向き合い、求められる新しい政策を立案し、優れたものについては関係部署とも調整をしたうえで、予算化して実施していくという、とても実践的かつ挑戦的な取り組みとなっています。

4 つのグループに分かれての政策立案では、それぞれ異なる課題に取り組み、試行錯誤を重ねながら議論を深めてこられました。思うような結果を得られなかったグループもあったかもしれませんが、皆さんが熱意をもって真剣に取り組んでくださったことに心から敬意を表します。

特に、若手職員の皆さんにとって、市の政策課題を自ら考え、立案するような機会は決して多くありません。その点で、この研修は皆さんにとって刺激的な経験となったはずです。日々の業務では、公務員としての責務の中で、失敗などは許されにくい環境にありますが、今回の研修では、失敗を恐れずに新しいことに挑戦する機会を得ることができたのではないでしょうか。また、市政や市の業務なかに「より良くなる余地」があることにも気づかれたものと思います。日々の業務の中では見えにくい課題や改善の可能性を改めて考える機会となったことも、大きな価値があると感じています。

政策を立案する過程では、提案に対してさまざまな批判を受けたり、関係部署からネガティブな反応があったりと、決して平坦な道のりではなかったでしょうし、理解が広がらない悔しさを感じたこともあったかもしれません。しかし、限られた財政の中で、市民の税金を有効に活用しながら課題を解決していくためには、こうした厳しい現実とも向き合いながら、庁内の連携はもとより、民間との連携をも模索して、実現可能な政策を練り上げていくことが不可欠です。このような能力とマインドセットを備えている人材が、これからの行政パーソンとして求められるということを心得ていてください。

この研修を通じて、新しいことに取り組み、提案し、実現のために奔走することの難しさについて、改めて「実感」されたと思います。しかし、この経験を積まれた皆さんこそが、岐阜市役所の、ひいては岐阜市の財産となります。こうした挑戦を経験した職員が増えていき、やがて各部署におけるリーダーとなっていくことで、市全体の政策遂行能力、政策立案能力が高まり、より良い市政の実現につながると確信しています。

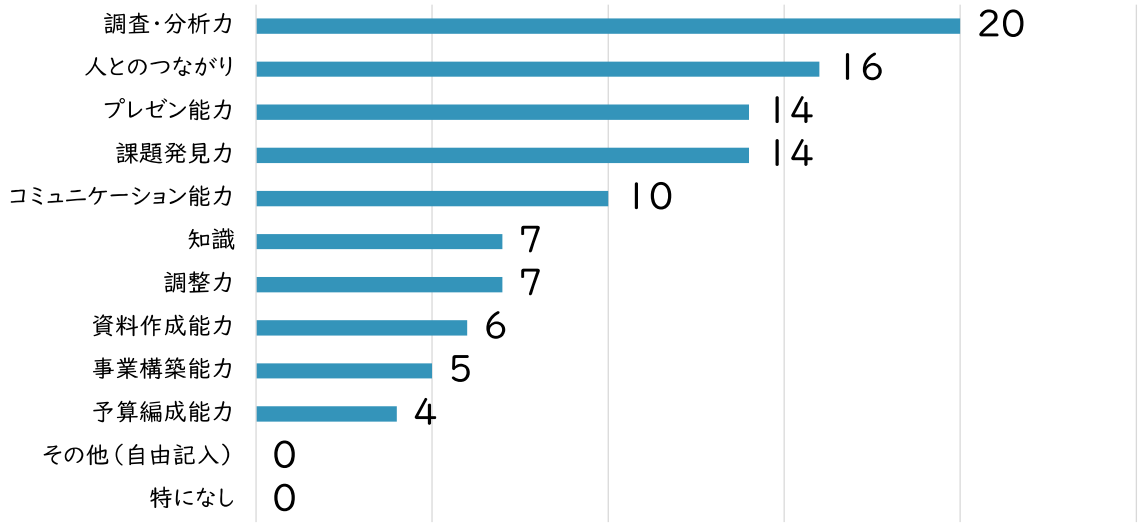
来年度も、この研修の新たな参加者となる若手職員たちが同じように政策立案に取り組みます。皆さんが、関係部署の担当者としてサポートする立場になることもあるでしょうが、厳しくかつ温かく、支援をしていただけると嬉しく思います。また何よりも、この研修で学んだことを活かして、現実の政策の遂行や立案の現場において、皆さん自身が活躍されることを期待しています。

最後になりますが、改めて、皆さんの熱意と努力に敬意を表します。これからも、市民のためのより良い政策づくりに向けて、一緒に頑張っていきましょう！

5 アンケート調査結果 (個人が特定できないよう、内容を一部変更)

Q1:ワーキンググループに参加して、自身を向上させる上で役立つと思うものはありましたか?

(選択肢から複数回答)



Q2:Q1 で答えた理由を教えてください。

○現状を把握し、課題を設定していくプロセスを一から学ぶことができたし、エビデンスを集める際にどのデータがより効果的か分析する力をつけることができたと感じるから。また、グループ内だけでなく、関係課や外部団体とのコミュニケーションの重要性を感じたから。

○課題の設定のプロセスを、学びながら丁寧にすることができた。その後の課題解決についても、論理的な流れを重視して進めることができた。

○客観的に分析し、データに基づき定量的に政策を考えたから。また、政策を考える上で連携し合える仲間と出会えたから。

○他市町村の事例や、似たような事業を行っている事例の調査の重要さを感じました。また、事業を行うことで課題にどう貢献できるのかなどを考えるのは初めてだったので、良い経験となりました。

○現状、課題と認識されていないことの発掘や、調査をしたこと。エビデンスを見つけ出し、その数値等からどういった考察を導き出すことができるかなどの過程を経て得られていたと感じているから。

○エビデンスに基づいた事業立案のために様々な角度から調査・分析する力がついたと思うから。また、職種や年齢が異なる人と1年間交流を持ち、役所の仕組みや、今後の業務に生かせそうな人間関係を得ることが出来たから。

○岐阜市の現状をもとに課題を発見し、その解決策についてエビデンスを探す作業に時間をかけたから。また、この機会にしかおそらく出会えなかった人とのつながりができたから。

○大勢の前でプレゼンする機会は通常業務で頻繁にないが、原稿を読みすぎず発表する力が身についた。横のつながりがプロジェクトに参加する前より強くなった。

〇今回のプロジェクトを通じて、岐阜市の現状から理想の状態にするためにどんなことが必要かを真剣に考える機会となった。

〇課題発見力：ターゲットを明確に捉え、エビデンスとともに現状を整理することから課題を見つけ出す重要性を学べたから。

調査・分析力：多くのデータから、エビデンスになるものを見つけ出す練習になったから。

コミュニケーション能力：社会に出ると、目上の方と協働して取り組む場面がとても増える。そのような中でも遠慮し過ぎずに自分の意見を述べたり、円滑な人間関係を作ったりするという貴重な経験ができたから。

知識：公務員として政策立案をする時の流れがよく理解できたから。

人とのつながり：実際に市役所職員の方から仕事について話を聞いたり、就活について相談したりすることで、将来像を描くことにつながったから。

〇中間発表を目指しワークを進めていく中で、自分はグループで必要なデータや資料の作成を主に担当した。今までの業務でもデータや資料を作成することはあったが、必要なものが明確になっていることがほとんどだった。しかし、今回は自身やメンバーで結論とデータや資料を結びつけること、集めるものの意味を常に考えながら進めていく必要があり、より自分の調査や資料作成能力を向上させることができた。また、担当課や関係機関はもちろん、メンバー間で意見やスケジュールをどのように調整していくかは大変学びになった。

〇課題発見から事業提案、予算作成の一連の流れを行うなかで、上記で答えた能力が身に付いたと感じた。仕事をする上で、関係者とのコミュニケーションを取ることが、円滑に事業を進めることに大きく関わっていることを強く感じさせられる機会となった。

〇解決すべき課題の発見から、事業立案まで、一通りを経験することができて、それに関連する自分の能力の現状値をはかることができた。チームのリーダー的役割をやらせていただき、発表は全部自分の責任と思ってやることで、資料の作成やプレゼンにより意欲的に取り組むことができた。

〇課題をゼロから見つけるという経験がなかったので、現実と理想のギャップの差から課題を見つけることができると学べてよかった。他市町村や業者に聞き取り調査を行うことで調査・分析力がついた。

〇調査・分析、資料作成、プレゼン、予算編成は入庁してからきちんとやったことがなかったので勉強できて良かった。自分に特に足りていない能力はこのあたりだと痛感した。今回は自分が触れてこなかった分野をテーマにしたので、知らないことだらけのところからの事業考案だったため、業務や分野に対する知識や経験は重要だと思った。知らないからこそ気が付けることもあるとは思いますが…。コミュニケーション能力、調整力、人とのつながりについてはグループの中で自分の担当になっていた部分があり、今後も自分の強みにしていきたいと思うことができた。

〇プレゼンで限られた時間の中で自分たちの思いをどのように集約して伝えるのか、どうすれば伝わるのかに悩んだ分、その能力の向上が図れたと思う。人とのつながりによって、新たに自分たちにできることの幅が広がっていくことが実感できた。

〇ターゲットや課題設定から事業提案を行うまでのたくさんのプロセスの中で、調査や分析を多方面の角度から行う他、その事業の趣旨や効果について伝わるようにプレゼンを工夫したり、あらたな問題が出てきたときにその問題を解決する新しい方法を考えたりなど色んな能力を向上させることができたと感じるから。

〇調査・分析力→根拠となる資料を探し、今回の施策にどう生かせるのか分析することが多かったから。

事業構築能力→今まで経験したことのない、事業の構築というところで、1 年間を通して経験できたから。

プレゼン能力→市長の前のプレゼンだけでなく、毎回今回の成果を各グループの前で発表することがあったから。普段の業務において、プレゼンをする機会というのは、若手職員ではほとんどできない経験だと思うため。

コミュニケーション能力→部署や職種、年齢も違うメンバーと共に、コミュニケーションを取り合って活動ができたから。

知識→プレゼンした内容の知識はもちろん、施策を組むにあたりどういったプロセスを踏んでいるのか、自分の知識の浅さを実感することが多かったから。今回知識を少しでも増やすことができたと思うため。

人とのつながり→グループだけでなく、見積業者や、該当団体の方など、様々な人との関わりを実感した。

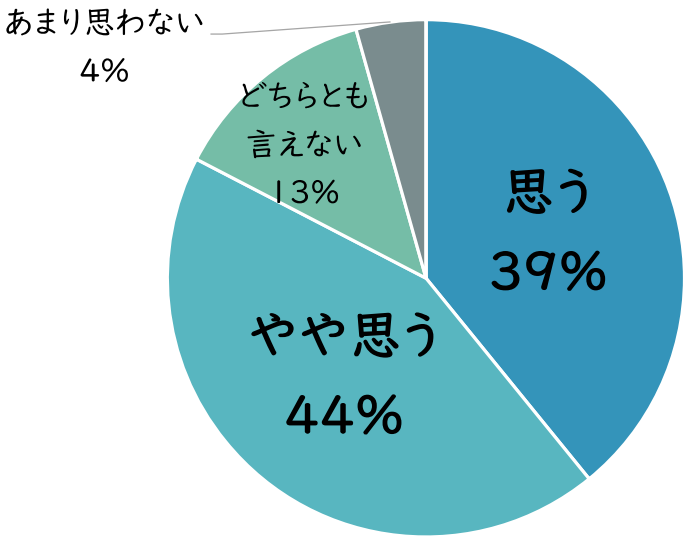
〇関係各課や NPO 団体に聞きとりをし、要望等をうまく調整していくときや打ち合わせ日程を調整していくなどの作業を通じて、調整能力が培われた。説得力のある内容を根拠に基づきわかりやすく、関係各課に伝える際にプレゼン力や分析力が養われた。

〇岐阜市の理想や課題についてなんとなく頭にあっても、根拠がないと自分の想いは伝わらないのだと感じた。根拠資料をたくさん集めることで説得力も増し、受け入れてもらいやすくなった。

〇自分の知らない分野に関する様々なデータを探し、数値から分析を行う（課題を見つける）という経験は今後も役立つと思うため、非常に良い経験になったため。人に伝えるための資料作成において、見やすさや伝わるデータのピックアップ（掲載）を考える良い機会となったため。今までの所属部署と異なる分野の話を聞いたり、調べたりすることで知識を得ることができたため。

〇社会人の方とここまで長期間に渡り活動する機会は初めてだったため、コミュニケーション能力や貴重な人とのつながりを得ることができた。市長や多くの社会人の方の前でプレゼンをしたことで普段と異なる場でプレゼンをする能力が身についた。政策を実現させるためにどのようなエビデンスが必要か、どのように予算を編成して関係部署と調整するか、といった考え方をみにつける事ができた。

Q3：若手職員が活躍する組織風土が醸成されていると思いますか。



Q4：Q3 で答えた理由を教えてください。

≪「思う」の回答者≫

〇例え違う分野だったとしても、若手で、岐阜市の理想や課題解決のための提案を考えることができたから。

〇まずは課題に気づくことが大切で、課題を発見する能力を得た若手から総合政策課へ課題を共有することで、全庁にも展開できる素晴らしい組織風土が築かれていると感じられる。

〇本当にゼロから予算まで自分たちで立案していくため。

〇特に市長のお話を聞く中で（夕食会や報告会時の講評など）そのように感じた。若手職員が積極的に活動していく重要性や、これからの市役所職員に必要とされることなどに関するお話を通して、組織風土を変えていく熱意が伝わってきた。今は醸成されている最中であり、今後はそういった組織風土が定着していくのだろうと感じた。

〇１つのきっかけとして若手職員が岐阜市を良くするためにアイデアを考えることで、そういった組織風土が少しずつ醸成されていくと感じた。

〇この若手 PT が単年ではなく毎年開催され、無事終えられていること自体がそう言える一つの理由だと思う。

〇本プロジェクトは「若手社員も参加出来る」ではなく、「若手社員中心で進めていく」といった要素があったため、若手が社会を変えていく雰囲気を感じることができたため。

〇庁内の中でも若い方々を中心とした『実際に予算がつくかもしれない』という条件でのこのようなプロジェクトは、積極的に若い方が意見を言ったり、活躍できる風土の構築につながっていると思う。また、岐阜市長の前で直接プレゼンをして、フィードバックをもらう経験は凄く刺激になると思うし、岐阜市役所全体としてバックアップされている風土があると感じた。

〇実際に立案した事業に予算がついたことで、上から与えられたことをただこなして受け身で仕事をこなしていた状態から、主体的に事業の効果や役割について考えることができるようになった。この事業を継続していくことで、より主体的に課題を見つけ仕事をしていくことができる次世代のリーダーを育成できると確信する。

≪「やや思う」の回答者≫

〇参加者が当事者意識を持って考えられるプロジェクトであり、ゼロから事業立案のプロセスを経験できるものだと感じるから。

〇このプロジェクトで若手職員が岐阜市の課題に対してどのようにアプローチするかを自分ごととして考え、経験できると思う。

〇若手の意見も取り入れられる環境にあるため。

〇アイデアポストや本プロジェクトなどがあることに加え、今回、本プロジェクトに参加し、チームメンバーから様々なアイデア・意見が出てきており、やりたいことや実現したいことを言える雰囲気があると感じたため。

〇篠田先生も総括でおっしゃっていたが、これを経験した職員が増えていくことで、提案を受ける側に経験者が増え、若手も立案しやすい雰囲気は年を経るごとに醸成されていくと思う。また、人前で話す経験を多くできたこともとてもよかった。若手の内はそういう機会が少ないので、確実に成長につながると思う。一方で、庁内全体にこのプロジェクト自体がまだ浸透しきっていないのか、提案を受ける側のやる気、許容具合によっても、提案の出来は左右されてしまう。そこも含めて腕の見せ所なのかもしれないが、もう少しそのあたりのサポートもあってもいいのかもしれないと感じた。

〇通常業務ではプレゼンをする機会は滅多にないため、この活動は若手職員が活躍する組織風土の醸成に大きく影響を与えていると思います。この活動が経験するのはもっと先になっていたと思います。

〇ワーキンググループのような機会はあるが、係長会議のような会議に若手が参加して意見を伝える機会が少ないように感じる。一人では動きにくい若手もいると思うので、意見交換会のような機会があると良いと思う。

〇若手職員が活躍する機会は段々と増えてきていると感じる。しかし、上司に意見を述べるのはまだまだ気を遣う。

〇若手 PT の経験は自信につながると思う。まだ全庁的には若手の意見を積極的に取り入れようという組織風土は感じない。

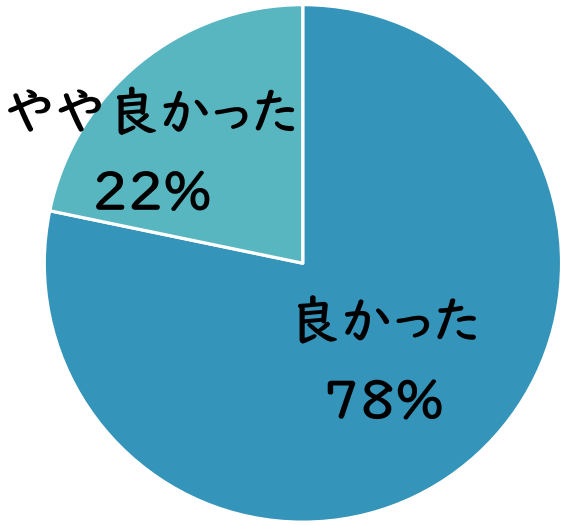
≪「どちらとも言えない」の回答者≫

〇若手職員は各々の部署の業務ではそれぞれ力を発揮していると思う。今回の若手 PT のように、事業という市民の方々からも目に見える形で若手の意見が通るかと考えると、相当な熱意と技量が無いと難しいのではと思う。

○若手 PT という取組だけでは、その組織風土を醸成するには弱いと感じる。「活躍する」を「熱量をもった」若手職員と定義づけすると、「熱量を持ち続けるモチベーションの維持・向上」させることが重要と考える。例えば「中堅職員研修」の枠組みで（事業化までを狙うまでの意図は込めず）どの職員にも事業提案・アイデア提案をし、発表してもらうことを必須にする等の取組も必要だと思う。
○今回の若手 PT のような取り組みや、エキスパートといった人事制度など、若手を積極的に登用する仕組みは多くあるが、どれも始まったばかりで効果がまだ見えていない。

≪「あまり思わない」の回答者≫
○個人的な意見として、若手職員が活躍したいと思えないのが正直あります。ただ自分の職場では話しやすい環境ではあります。

Q5：ワーキンググループに参加して、良かったと思いますか？



Q6：Q5 で答えた理由を教えてください。
≪「良かった」の回答者≫
○市役所など公共の意思決定やどのように課題を見つけ、解決するかを知ることができ、同じ場所で経験できた。
○分析能力、エビデンス集め等、身についたことも多くあり、何より良い友人と出会えたと思ったから。
○事業立案の流れを知ることができてよかったです。また、チームメンバーなどいろいろな方々と一緒に活動できてとても良い経験ができました。
○このワーキンググループでしか体験できないことをたくさん経験させていただきました。感謝しています。
○一番は人とのつながりが増えたことがありがたかったです。
○多種多様な人と関わりをもつことができた。役所の仕組みを知り得る機会になった。もしかしたら、自分が今後の岐阜市を変えるために、ごくわずかな力になれたのかもしれないと思えたから。

〇アイデア立案から実際に予算が付き、政策として実現される可能性がある、といった非常に実践的なプロジェクトであり、他では経験できない貴重な時間を過ごせたから。EBPM の考え方をより深く身に付けていきたいと思う。夕食会の時に市長と直接お話できたこと（人間関係を上手く構築する重要性など、経験を交えて教えていただいた）も非常に印象深かった。

〇この機会がなければ、繋がらなかった方々と繋がりを持つことができた。

〇素晴らしいメンバーと会うことができたこと。また、ワークを通して、得意不得意含めて自身の能力や知識を再認識できたこと。そして、今年の課の業務では得ることのなかった知識と経験を得ることができたこと。

〇これから様々な仕事をしていく上で、本事業に参加した経験を活かせる場面が多くあると感じたから。

〇とにかく、一通り、いろいろなことを経験できたということが何よりの財産。また、たくさんの人と知り合えたことで、今後の仕事がしやすくなった。

〇他では身につけることのできない能力を得たり、他ではできない経験ができたため。また、自分の考えた政策が実現に向けて動いていくことに非常にやりがいを感じたため。

〇自分の部署や同期以外に良き仲間を得られ、解散するのが惜しい。そのくらいすごく楽しかった。事務局のお二人にもいろいろと助けていただいた。普段の業務だけでは絶対に経験できないこと貴重な体験をすることができた。（自分の考えた事業に予算が付く、市長を始めとする大勢の偉い人の前で話す、部長に名前を覚えてもらえた、など）

〇初めは社会人の方々の中に学生 1 人グループワークに参加することは凄く不安で、『学生の自分にできることはあるのか』と感じていた。しかし、同じグループの方が私の意見にも優しく耳を傾けてくださったり、『〇〇を調べるのをお願いしたい』などと自分を頼ってくださったおかげで、岐阜市の事業について学生の立場から積極的に考えることができた。学生と社会人の力の差を実感することも多々ありましたが、約 1 年という長期にわたって、社会人の方々と何か一つのことに取り組むという経験は初めてで、自分にとってすごくいい刺激になった。自分の住む地域の課題を解決することの使命感と責任感を学ぶとともに、様々な能力を向上させることのできた良い機会だった。

〇通常業務とどちらも行うことはとても大変でしたが、確実に自分の今後のためになったと思います。

〇今まで関わることが少なかった職種の方や十六銀行、岐阜大学の学生と話すことで見識が広がった。グループのメンバーと親睦を深めることができた。事業に予算がついたことが成功体験となり自信がついた。

〇初めは緊張と不安でしかなかったが、同じグループの方が最後まで優しく接してくださったり、サポートしてくださり、自分なりに考えることができた。自分の力不足を感じることは多かったが、長期間社会人の方と関わりながら一緒に考える経験は初めてだったので、刺激と学びの多い、とても貴重な経験ができた。

≪「ややよかった」の回答者≫

〇他課の職員と意見を出し合える貴重な機械であり、今後この繋がりを大切にしたいと思った。関係部署の業務を知ることができ知見が広がった。施策立案から予算要求までの一連の流れを学ぶことができた。

〇自分が担当している業務とは別の分野に挑戦でき、自分自身の幅を広げることができてよかった。参加メンバーの年代や所属が様々であり交流できたこと、つながりができ、楽しかった。通常業務に加えた活動のため、若手 PT のために残業したり、有休を使って調査しに行ったりと負担感が大きかったのはマイナス。

〇政策立案までの大まかな流れを知ることができたこと、多くの人と知り合えたことはすごく良かった。ただ、自分はあまりグループに貢献できなかったと思う。

〇岐阜市全体のことを考える良いきっかけとなったため。岐阜市全体の現状の課題を見つけ、一から事業を考えるという機会・経験は多くないため。

Q7：本ワーキンググループで改善してほしいと思うことはありますか？

〇子ども、高齢者以外のターゲットがでてくるような活動の入り方も面白そうだなと思います。

〇年齢よりも、入庁何年目までという年次での参加募集にするのはどうかと思った。若手 PT の業務で残業する場合は、企画部から残業代が出るとより時間が取りやすくなるかもしれないと思った。〇ワークの中で、グループとしてこれが課題だと思ったことが、担当課ではすでに検討済だったり、それ以上のことを求められていなかったりすることがあったので、事務局側である程度の課題や協力してくれる課を選定してもよいと思いました。

〇（1）外部から参加した職員への配慮に関して

十六銀行から参加していた職員に関しては、3組織の協働プロジェクトという意味では大きな意味を持っていると理解はできる。しかし、実際のワークレベルで見てみると多忙でワークにあまり参加できず、グループの運用として難しいものはあった。他のグループに聞いても同様の意見を出てくるということは、職員個人の問題ではないように感じる。十六銀行の事務局にも来年以降調整や参加職員への配慮を求めていくべきだと感じた。

（2）スケジュールについて

市役所職員には、詳細なスケジュールを渡したほうが良いと思う。特に入庁して年数が浅く、予算要求などを経験したことがない職員にとっては、どのようなスケジュールで動いていくのかわからないため、より具体的にイメージできたほうがよいのではないか。また、同じ部に何人か参加経験のある職員がいるのであれば、話を聞く機会があってもよいのではないか。

（3）担当課について

改善点ではないが、自分たちで課題を設定する形である以上、担当課との意見の食い違いは出てきてしまうし、担当課には大変なご苦労をかけた。

〇自分たちで課題を見つけるのは重要だが、関係課との調整に大幅な時間が取られるので、あらかじめ各課から課題を募集してみてはどうか。

〇実現可能かは分からないが、市役所職員以外も WiFi を使用できると嬉しく思った。
〇もう少し全体で集まる回数が多くてもよかった（特に 4 月～6 月、週 1 回は必ず等）と思う。
〇市役所の方が毎回、市役所内での連絡事項等を学生と十六銀行の方に個別で連絡してくださっていたので、その手間は申し訳なかったと感じている。
〇十六銀行の人たちがみなさん忙しそうで参加が特につらそうに感じた。欠席が目立ったり、宿題ができていなかったりということがあった。市役所職員も 7 月異動が原因でメンバーの交代があったが、環境の変化があっても忙しくてもみんなスムーズに参加が続けられるように所属課がもっと配慮すべきだと思ったし、それを徹底してほしいとも思った。十六銀行の人と大学生との連絡に teams 使えないのは不便だった。結局メールでファイルのやりとりをしていた。それもあってか、十六銀行の人と大学生に疎外感や遅れを感じさせないように気を使った。自分のグループのことで必死だったので、他のグループの人たちとはほとんど交流がなく終わってしまったのは自分の中でちょっともったいなかったなと思った。
〇本事業への参加は手挙げ制とすべきと思う。各部からの選出では、指名されたから参加したという職員も多く、モチベーションやこの事業への貢献度もメンバー間でかなり差が見られた。この事業は若手の活躍の場、育成の場という目的ではあるが、参加した職員にはそれなりの評価を与えるなどのメリットを事前に示し、募集を行う形としてほしい。
〇十六銀行や岐阜大学の学生はそれぞれそこでチームを編成し、銀行ならではの視点、学生ならではの視点から提案してもらう形の方がおもしろいと思う。アイデアを引き出すための時間（インプット）を多く取らないといい提案は生まれない。リバースピッチ的な手法で若手の発送で解決してもらいたい事案を担当課から発表してもらい取り組むという手法もありかなと。グループは年齢の近い職員で編成すると、主体性がうまく分散できて、各々が動けきやすくなるかも。
〇ディスカッションの部分により重点を置いたプログラムにすると、よりよくなると感じる。研修中のディスカッションできる時間がやや少なかった。そのために、最初の方にあった講演やデザイン思考の講義などは、録画しておいて前年度の部分を見てから研修に臨むスタイルに変更することが考えられる。また、もし可能なら、岐阜大学の講義（統計学、デザイン思考など）や、市役所の e-learning、十六銀行の金融知識を得るための教育プログラムがあれば、若手プロジェクトの参加者が所属以外の講義であっても自由に聴講できる協定などを組めると面白いのではないか。
〇グループ1～4までのグループ同士の交流の時間が少なかった。それぞれの予算が200万なので、例えば話し合いを進めていく中でグループ1と2の政策が若者の支援という内容で一致していたら、合体して最大400万円の予算でより大きな事業を実現できるというようにするなど、ある程度予算の用途が柔軟に使用できるとより面白いアイデアが出てくる土壌ができるのではないかと感じた。岐阜大学の学生と、十六銀行の方と Teams 等でデータを共有できたらなと思う場面が何度もあった。パソコンを彼ら彼女らにも貸与してほしい。セキュリティの部分を解決してなんとかならないかと感じた。
〇難しい単語がでてくることがあった。説明がないためその場でわからないとわからないままで進んでしまうことがあった。

Q8 感想（自由記入）

〇自分にとって本当に良い経験ができました。力不足なことばかりでしたが、本プロジェクトに携わるすべての方が優しくサポートしてくださり、学びが多い日々でした。ありがとうございました。

〇一つの課題に対してこんなに時間をかけて解決策を考えたり実行に至るように計画したりする経験がなかったため、非常に良い経験となりました。

〇担当課の方だけでなく、いろいろな方々に話を聞いていただいたり、サポートしていただいたりと大変お世話になりました。今回学んだことを活かして仕事できるように頑張りたいと思います。

〇事務局の皆様には政策立案に留まらず、グループの士気が崩れないよう取り持ってくださったり、Teams では堅苦しくない柔らかい雰囲気であったりと、1年間本当にお世話になりました。立候補ではなく形式的に選ばれた立場でしたが、なんだかんだ参加して良かったと思っています。

〇市役所がどのような組織構造となっているのか、職員がどのようなことを考え、行動しているのか、職員に必要とされる力は何かなど、実際に職員の方と長期で活動しないと分からないことがたくさん知れて非常に良かった。今回得たものを、社会に出てからも活かしていきたい。プロジェクトに声をかけていただき、参加させていただき、本当にありがとうございました。現場の声をもとに行動できるような公務員を目指したいです。

〇大変でした。楽しかったです。事務局の方もお疲れ様でした。

〇個人的な感想としては、人前に出ることが苦手だったので、最初はあまり気が乗りませんでしたが、事業が終わった今は、参加できて本当に良かったと思います！1年間ありがとうございました！！

〇本当に得難い経験をさせていただき、ありがとうございました。今後もこの事業が発展していくことを願っています。

〇エビデンスに基づく施策立案の大変さを実感した。ターゲットに話を聞くことの難しさと重要性を学んだ。ここで得た学びは今後の役所人生に活かしていきたい。

〇事務局をはじめとして、関係者の方々にたくさん助けていただきました。長期間ありがとうございました。

〇若手 PT はグループで活動できたので、一人では実現できなかったところも乗り越えることができたと感じます。同年代で頑張っている仲間に出会うことができて、自分と違う考え方も知ることができて、刺激を受けました。参加してみて、貴重な経験ができたのはもちろん、仕事をする上での自分の強みと弱みを知ることができたのは自分にとって大きいと思います。若手 PT に参加していることだけでなく、同じグループの人たちが自分を認めてくれたこと、難しかったけれど最後までやり遂げられたこと、先生方や担当課、上席の方々にいっぱい褒めていただけたことが大きな自信になりました。（大人になってから褒められることはあまりないので嬉しかったです。）

〇本ワーキンググループに携わる岐阜市役所の方々は本当に温かい方ばかりで、活動は大変でしたが皆さんのおかげで楽しかったです。事務局の方々もたくさんサポートしていただき、ありがとうございました。参加してよかったです！

〇ワークの時間は限りがあるので、ファシリテーションの手法をその回ごとにちゃんと仕込んでほしい。「こんなことをやってみたい」という思いの吐き出しからワークを始めた方が、面白い提案が生まれる可能性もある。ワークの手法も工夫してほしい。型にはめさせ過ぎてる部分はあるので、色々な方向性からの考え方を引き出し、最終的に型にはめさせるなど。リーダーの負担感は半端ない。1 年間、事務局の皆さん、お疲れ様でした。

〇どこまで勝手に進めていいのかわからない部分がありました。例えば、業者に見積を取るとき、普段なら上司に確認してもらうような内容も、確認ができないので、曖昧な仕様書で無理をいって見積をいただいた部分もありました。また、土日に関係団体と打ち合わせに行く際、超勤はつけていないですが、プレゼン内に何日に聞き取り（土曜）と記載していたときもあったので、それは大丈夫なのか、となった部分もありました。

〇事務局のサポートが素晴らしかった。司会が各グループのプレゼンが終わった後に話す、一言コメントが共感できる内容やユーモアが効いたコメントが多く毎度楽しみにしていた。若手職員でも、遠慮なく質問をしたり自分の意見を発表できる体制が築かれていたと感じる。とても素晴らしいサポートで、話し方や、若い方とのかかわり方など、今後自分の仕事においても見習いたい点や取り入れていきたいところがたくさんあった。おニ方、本当にありがとうございました。

〇外に出かけたり、グループで集まったり多忙な業務の中で負担に感じることは多々ありましたが、若手と言われる時期に経験できたことはとても良かったです。この経験は今後の業務の中で必ず役に立つと思います。また、普段、他課と関わる機会があまり多くないので、知り合いが増えたことがとても嬉しかったです。

〇事務局の皆様、いろいろとお力添えいただきまして、ありがとうございました。